も 御同様成かなる 御院を行

西南大平洋反西軸軍司令官マツカ 動型の統率問題に関して使した場 しサーが太平洋水域における反福

マツカーサー今次の啓明に勤し、スチムソンが

の『爆彈聲明』

配によれば廿三日の陸軍長官スチ な破略を與へ、當局はこの前後措理解明はワシントン政界にも非常

育助員態勢の強化でなければ

心となるべきものゝ一つは、

に黙が敗上げられるであらう。 即ち今回の措置は、決戦下

る。そしてそれがために教育を

よた已むを 得さるの 協能であ

※使に対する國家要請に 芸く の機力の一最として、 風校 恵

期の制度を設けるとを原則とし理工路略系統には新たに入然延

般に撥集猶豫を停止する反而

等一部の政済が停止される結果 までもない。従って、このことないる

めの非常構図として、これまた で、結局は成び抜き勝ち扱くた

> 強大され、いはゆる『曖昧即愿 るに選びない。一般局の推移に従

在來ともに懸徒への負荷は

しむを得ざることである。

ら、既に國土防衛動員と感徒動

門的競技訓練」に飛躍した時か

しなるが、國土防衛上の協会を

說社

決戰的教育動員の確立

に選充整備すること、法文科

勉励を描けてゐた

統の大風政質を停止すること

べき時が來たことを強く

いふべきである。

また、一部教職員の間に授業

上下 諸員の 理感があって御傷

東城 東條 首

「御参列の高松宮、同妃兩殿下

米政府は苦慮

を奏し率れば 天昌陛下に

島群ンモロソ

な家せられ、國家の安察を御町

く皇極殿に出御、大前に御

親しく御親華あらせられた、

いで、量后盛下の御代理

量族殿下御參列、東條首相以下

同妃病殿下をはじめ密い 開殿を御袋師申上げ、 早ら 常典職員率仕して 畠原

日宮中におかせられては (東京電話)秋季島既然の廿四

秋季皇靈祭

宮中の御儀

島盛下御穀祭のもとに秋季島

派出と同時関係の問題を脳が

第二の員内歴歌館化方類についてはほど左の姉き紫綬が可能となるが、第一及び第三の問題は直接中央政府の属地すべき問題であり、 各般にわたって思ひ切った手を打っことは必至と見られる。今回沈 して内鮮一熊、決戦即應の賦平たる施策を樹立するかにあり、施政 ってゐるが、要は從來實施して來危稅理施策を如何に强化、具態化 肉防衛膨紫の弧化に萬全を抑すべく、政府の真髄的方針の決定を待樹立した。右に関し緻密府では、内地に前腹し國民動員の徹底と図 化(二)決慰國内閣場の確立(三)適切活 國国総力を雖けて決電場裡に助資せんとする未曾有の施牧であるが情報局珍表になる國内歐州頭化方策は既存の抵御、豫須に拘泥せず 悪に一層の徹底が奥郡せられ、その真際的方削としては弧酸傾成とての鍛成を各方面において行って來たが今回の國政巡察大綱に総み 半島の國內態勢强化目標 野精神の振興は卧室であり、現に特別中の第二天食婦増配對衆等も 電係件、土地改良事業等の一大進展と共に應急食用作物の増蔵、動 更に検討を要する

國内態勢强化策へ

概感習が極力主張して來た地方第一級行政の刷新担化といふこと道への移職、道事所の呂面への移職を削退とするものであって、

如きとは既有り得ないと考へられる、この職業化は一部中央事務の

展、緊勢者無成の強化、家庭特に婦人無成の組電的創作等精神勞働にたづさはる者の製熱場智 へられる

敗巡然大綱を決定、苛烈なる決國下寅に駆國必勝の賦乎たる方策を 世界威局の緊迫をる展開に伴ひ政府は廿一日の定 展職において欧

施設の気間、都市防空施設の現化と不必要建設物の整理移戦等が考察四の國內防衛態勢被底頭化に関しては、防空施設、武中工場防空

時に於ける事物に現に献母の演繹な事がが加重されてあるので、さ厭時下においては特に必要であらう。中央及び地方を通じて現在、平

とによって凱頭状態にたとへらるべき職時經濟各種の困難を創定適 切捨てるべきであらう、かくて第一線に人物と棚限とを移譲するこ し皆って戦力増型に必要なる事務のみに止め、機餘のものは大緒に

によって超り得べき各種の問題は政治的に解決さるべきであらう

との一個化を必要とするに至ってゐるので所謂『朝鮮の特殊事情』 強化を聞ることである、而して悽愴なる決戰爭敗は徐々阴鮮

以上を要するに朝鮮に於ける當回の問題は最も大騰に施収の徹底

發展と共に、地方事務に通際せる餘秀良量の故郷登用といふことが

ものであるから、新しい観覧から現在の企業整備業が、「機能さ

この級に沿って照行されねばならない、大物回長主義の更に一階の

國内態勢强化への方途

第二の軍制生産力、特に航空戦力の増殖については、朝鮮器自の事一、行政運営の決戦化 こくに掛けられたる階項目のう

性に断み悩底的施衆が要求される、而して之がため観察所において、第三の日湖を通ずる食様の総勢的自給に對しては、顕観米作の重要 発成とこれが内地派沿等は営然署へられることであらう 情よりして戦金風増産の徹底的照行、航空機工業等大量の勞務者の を樹立して死たが、自然的條件に左右せられざる生

地に牧容中の城闕人の。当社を明始

廿三日午後一時から香港、殿東南

帝配丸は廿二日夕刻、香港に投錨 **他廿三日同盟】第二次日米交换阶** 帝亞丸香港出帆

審

同盟」山形公旗を初めメリ 邦人は前径四日間プエノスアイレ

グ號に乗船イレスサミロ山形公使ら「フュノスア

ルゼンチン政府は極めて魔大な敵 スアイレスに派在して居る間、ア

同四時する報酬を完了回夜祭近称。一路交換地マルマロン湖に向った。ム院に駆動したが、一行がプエノ。生活にも揺らず整極元氣でプエノ 銀せ廿三日モンテビデオを出収、

ホルム院は米納各関在田の和人を スに流在の後モンテビデオに赴き 邸における殿正中立の立場を衰弱、不甘三日問題】変換船がリツブス 邦人は前後四日間プエノスアイレード・オース・サーフ 発量 そ 日で買

スアイレス出級に先立ち次の通り 常に日本人に對して親切で跡交。ス・チャンドラ・ボース氏は九月崎交にも拘らずチリー國民は非「日便民」 門里 郷立城區 裁数スパ ボース氏から

ツク世三

全面和平へ努力

後廿四機ならびに歌聞

大の既果をあ

ダイヤモンド社・新刊重

版

書東京都勢町區

独自爆大機である、今後わが攻壁けた、本攻率においてわが方のい

は腐々焼烈を加へるであらう

新市员粮贷 星野 通著

獨クバン撤收

訪日の汪國府主席語る

廿二日附でム統帥に脱陷を送り統 局国 印度 郷立郷盟 糖製スパ

局盟」今次訪日を第

なく終了、廿

級對抗争をすべきではなく中國の 胞に呼びかけ東距民族は互に

ワ占領を公表り職、ポルタ

頭優から組織的に撤収した旨廿四 はカバン個頭優の類形がカバン樹

身分法を本位として明宗法をそれに併願せ身分法を本位として明宗法を、為民役等の實踐す

元帥は二十三日布告を 同盟」赤伊股高司

競し次の組

下の物民に必須な諮問題の知識を現ふ。
、下の物民に必須な諮問題の知識を見ふ。
、関内諸地方、印度に関する記事を相足し、
、関内諸地方、印度に関する記事を相足し、

本書に民事刑事の南縣訟法に就いて、締めて分り島い解説を試みると共に、訴訟乃至成列の本質に関する著者獨自の見解を顧明

部省では廿二日皆局版を以て法文系の大學は政策を除止する間を終夜の影酔顕光と法文科系統の大學、以門學校の統合整理であるが、文校の影酔顕光と法文科系統の大學、以門學校の統合整理であるが、文

國民動員の徹底これが中心的問題は理工科系統の恩

表した。これに関しまだ具態的方針が明示されてゐないので即解

は内無貿易の瓶移、鮮内生産事情等より考へて物資の紙制が通貨

岩機構の確立と企繁整備の 以検討が必要である、晒ち朝鮮において

其の他じの問題はついて一般的に内地心感、特殊的にはは

國內防衞態勢の徹底强化「聖工場、

の統制を強化するばかりでなく物の面の統制、

によっておこる可能性ある政治問題は政治的に解決するより外

ープリ市では廿二日來郷甲後衛と レンスク東南宮キロの要頭ロスラ

が知前的部隊との間に

被告な市場

刊新店書倉朝

豫

見童生活の實態。青木誠四郎を含る元式は 生活の有機化學二國二郎著版は「七〇首

現象學(上)佐竹哲雄著是假門公園

民族科學研究 振興會編 窟門八〇

告

民族農政學小野武夫著意語是

衛爆點ボルタ

本書行商策政策の樹原とする所を包括説明本書行商策政策の樹原として起り、何故それが必要であるかを説ける一般人們想と

社言

完全消化

街でも自住間でも相

人出の多い街 の人出である

伊瑞國境閉 質が、火を助くやうな思ひで思識 か▲あらゆる私的生活の敵心的語 されてゐるのに一個人の一切、一 の人々の館は案外のびたうどんの大魔妻をしたはかりなのに、街頭大魔妻をしたはかりなのに、街頭 うだが、これでよいのであらう 人が動くのであらう▲政心が弱めいと思え。何の用事があっ

掛置が一時的便法かどうかは判ら ツン來性=郷田宮局は廿三日キア 通過を許すに限定した、但しこの 世行に移すべき楽部日つ猛地のときか今であり、一般時の一大概 の心のときなのに、除りにものんのしまなのに、除りにものん 家の一切を駆けて、

公開談の至間を観念 生活の単数として

・房

封。建

書 出

刊新

粉授法 船田 亭二著

酸B ■ 6

■ それとを蟄比し、如何に獨得の判 投國の法律思想の歴史を西歐の

神田 相 中 満月を辿って来たかを説明し今 さりとを登れし、如何に採利の

し内外地の質量事間につき側面研 「総合意脈構図に属する大綱」を る五日総合意が特別委員會を設置 的調査研究を続けた結果、この程

る扱助等を根幹として策定され

東語、内務各省政府委員を加

【東京電話】 復政會政務關查會で | 速置現を期するため阿部総裁から

翼政、政府に進言、實施要請

技術の漁猟、水産増産、外地増肥料および資材製筑、生産の指

綜合食糧對策大綱

究をなし、更に七小委員會を設け

本型網航船家」を決定、これが急・す職く網館に着眼し日補売を一丸

閣顏觸

共和フ

ァ

シ

スト政府成る

編別的機関の政治(九月廿 、ド急が統然)

まれてゐることを忘れてはならな

一千五百萬も含

植民地 る我願にとり貴重なな命である。

フイン上空に百四十二機邀撃 擊破六機 孤脱とともに反稱軸各國において 【リスポン廿三日同盟】 帝國政府 東條首相放送 に英紙の恐怖

マンF4Fなど戦爆連合百四十二機の大編隊でわが 重爆撃機、ロッキードF3、ベルP3、カーチスP4、ボートシコルスキーF4U、グラル 去る廿二日早朝また~~敵機はダグラスSHD急降下爆撃機、コンソリデーテッドB2、「南太平洋00基地廿四回開盟」ソロモン海域における被表の決蔵は隣の急大な物性と氏に織物的熱な傷を整々器と発起してある い物性を出した外、地上施設に若干の徴點を受けたが至って際物で機を一群、破し他を一単純せしめた、この感感でわが方は二種の章 が戦闘機群はたゞちに **悽愴な空中戰を展開し熾烈な地上砲火と相** つてその廿七機を撃墜しB24、SBDなど六 ブーゲンビル島ブイン上空に來襲、 を認めた結果であると同時に、 日本政府が今回の軍大施策を発 たのは一面において戦局の緊急

カーニコ 機を屠る

あつた

テッドB2軍爆機一機がわがニコベル諸島カビナン世四日回21季十二日書間敵コンソリデー 直ちに邀撃、これを撃墜したが、わが方も一機変失した ーニコバル島に來襲したが帝國海軍航空部隊は 米造船進捗を誇る

では自分としては何ら批判を加 でで置いまた。 で政府はマツカーサーを協議の た置いまた。 ためワシントンに召潰するとの と言いまた。 『陸軍笛局は現在秀成してゐなとの質問に對しては 進歩ぶりを ワシントン來電=米海

內相

法を制定する豫定である、新内閣 質を開催して新共和ファシスト

新政府、近く北伊

式に新内閣組織を施表したが、

ソフラン・バラフル ファック・・バラフ・・グセスコ・マ

算相場引下 パドリオ政概對伊爲替換 [東京電話]

なる協力のもとに依然執 四日後表)わず四川

その風楽を半ばにして銃をとって 8のいっことを 末だに 考へてゐ

称に相似しよう

ちべ、つ味尾船大輝

獨逸の占領地統治政策 建で表國民に参大の示吟を異なる 野 総著 三世の 軍 「巫・親はみ無瀬兵衆には死に進力を

西 座録●京東

全の措置を談じたが、更に今回大

をもつて公布した、即ち盟邦劉逸 げを行ふとに決し、廿五日附官報職衙ではリラ爲語換類相場の引下

避步財政、後はカフエーに指紛と

数は製茶街を

安藤英夫著

級脱船をはじめ大中型船舶七十

『ベルリン廿三日同盟』ローマ來

ンガリ・カサノバ 関=共和ファジスト政府は廿三日

に刻下の際追せる時間は脱绌のむしる光楽とすべきであり、正

第一級に勇踊出正する者も、

数管の振興と相俟って、滑客、 等患を長會同の階上『料恩技術》 せて海洋及び鳥事訓練の普及を 策せしめる。

と咽吸した時、 なる科學、 出來る。斯くて殿野に直接 き助以歌がは、こゝに新しき損なかった時だけに、今回の新し

等の身逸に追り來ったこと、こ

ついては未だ強調を許さぬが、

朝鮮における諸風极の動所に

となって、一段と曖昧への進出

やがて『屋耳航空胸保豫船役兵 労助員とは、威争の級に沿って

出して來たものである。然も

者を除く踰理方面を取る二家

られたる場話な道であることを へたならば、これによって喧

し、それくの分野に於て配針

はれる 【ベルリン廿三日同盟】ムツソリ

て共和フアシスト新政府の組織を ては「福軸各國は恐らく共同動作 競表したがドイツ外交界版におい 一統帥は撤土軍來の窓氣をもつ

樞軸各國近く承認

表明、ことに必ずしも位來の經歴 初かである。 少数内閣を組織したところに祖國 にとらばれず新人を扱綴し、 かっ

日咳 喘息 肺結 職醫家に急告

社會發合樂製由際伊 三町隧道阪大

石^兼常 川 佐

よび財配施設を粉碎仕取機の被機

が動員が下さるべきである。 が動員が下さるべきである。 が動員が下さるべきである。 よりも恥づべきることを結合し 休は出年に織して高楽者の動員 1 0×10A 1 0×50A 10° • 20° 房會空三 = 田神西・田神・京東 大九〇二三 京東曹振 文樂の

十月初旬経費 今では東京

デイオタ、が晩年の十年間に心魂を軽けたます中世の文章と音楽についての研究でかせる中世の文章と音楽についての研究でかせる中世の文章と音楽についての研究でかせる中世の大学と音楽をしている。

管軍少年飛行

要校、または

陸軍航空本部など

に四銭の切手 の解かな主意書や願書原は各地際線量司令部(兵事部)が

出來る大空への道が招かれる。

一公の赤賊に燃ゆる黥血の男

人のうへ申込めば武器して置へる、なほ本年からは特に

採用検査は、概ね來年一月 は本十八年十月一日から開始 年十二月卅一日をもつて統

さつと聞くなって、りつばな

際に於ては各種の相関、混亂を節。元化が更に緊要と言つてゐる、

十萬は頑微の痛をしつかと心にか一の烈々火を助く語願を初め玉配質。情も謝りなく進められ道民三首三一名置水天官に宛てた山崎県代中将一

長が 00、00部隊長に 宛てた

|も徹兵部が施行さ||つつけてやりたくなつた、そして

一大東亜酸が勃設するや大陸に南に

と蛸國の花と散り解となって永遠

作業) (漢梁中學院

局若人よ、いまの戦心は航空聴滅 に日出づる國を守らん、郷土の半

昭和十六年十二月八日米英に對す

だしたいて購入

はこの少年飛行兵の立派な働きを ましく酵々たる武職を倒てた、僕 北に少年飛行長の真蛮力闘は目ざ

れ私たちも等。時れて大空を飛ぶことが出來るや

しく第一級に

だけの監悟を固めてゐる、層れの てあれこれ想像してゐた以上

まで我優してゐた飛行兵への願ひ

岩出正男京城宮野町(南一歌等別壁 大いに獲ってわが陣営に來 日に迫り同慰緊然場其他語。の選

何と不御安心臓り度く除』と晩年

本部で昭和十九年四月に採用すべき陸軍少年飛行恩校生徒 者で、陸軍少年民召募の中、特に今回より少年飛行長

陸鷲志願の手引き

なかつを、空観といる瞬間的な歌(のなかに、我々が完璧の防箭酸歌イタリヤの指揮中極は一元的では(〇灰悪拳膜が自分に異望した意見

が軍民一元化されてゐる版である 映略をあげることが出來る、 の映略は防空に対する指揮組織の あげ途に脱落の悲迎を辿ったの ベリヤが敗度に亘る空間で悲鳴 傾何が原因したか、その最大

るがへつて我々の防空機就を省級

に玉確して紹久の大確に生きた第 でゐる。同玉確都際は大本総慶衰 に玉確かの以親生若を實践し に玉確かの以親生若を實践し

太利脱落の一大映略であった、 罪ぜられたのであった、

これが伊 機的な米英の課略が行はれこれに 株学が破壊されてこに强力目 酸に酸降盛破摧のためのわが空軍勢力必死増强を関し、銃後

き起し時間的經過によって総ての



|整度||強明度治成りの高松

反省せよ伊の

不備はないか民防空

談謀參保久

が果して所図の域に達してゐるか 官ともに高級官職の指揮連絡訓練 るものがあった、こくにおいて軍

手に送られる、右嵩廟は左の如く 潜原二頭が 近く同中海の 澄底の

にわたる空場下にありてし

きに全館防備主任者の活動を質地一到な訓練が豫朔以上に選張してゐ 力の空室源でありこれが防筋の強弱はまた前級配配の動産を担づなければならない、銃後は決戦場の兵站であり歩 告を浸し大阪左の如く路つた を支限する、銃後防衛隊の強化に刺し廿四日朝鮮貿久保養 常は伊太利脱落の深国が防空防災の聴勢不整順に帰した前 他山の行となすとくもに銃後に對する嚴重なる無

書的、繪畫、和歌、俳句·

金銭を迎へる遺族にとって無限

は 旺盛なる次配散職別師を設してゐる、われは 郷東して命郷地フを巡して困る、われは のので変形力を適じて假ら が、凡のる。一般力を適じして似らい。

に見たのであるがその政例さと第一るのを知り、自らを確みて出作と

あゝ壯烈!武人の面影

胸打つ軍神山崎部隊長の絶筆 古爾には切々胸を打つ七生軽國の土が生剤先銀同僚その他に送った

【東京電話】第三回金日本少 関民發明工夫製作品展製資は 會級裁高松宮殿下には展置會 心を垂れさせ給ふ花國發明部 日本機の三越本店四階でほで 技術の向上に殊のほか深き御一般に展示してゐるが、科學 監督場に成らせられ、二時間 高 松宮、 少國民發明展に御成り 餘にわたって御巡回あらせら の営上を御職取の御のち開保 成り、帝國發明高速に見雪長 れた、厥殿下には岩道三世社 同妃兩殿下

腹子さん、水深測道機、墨和殿 ナさんに これを登地に

流切最後の一進間で仕上げた語って止めてをりましたが、 つたか』『これとその後に作 たのは四月でした、中途で行 つたものとはどれがよいか』 つらに『このあとに新しく作

数々の御下間を賜った御のちて見ましたか』などと有難い 等質、様になどのよ

岡 明朝に任務に努力邁進し、居除し、報母しく御監察、將兵は至極と親母しく御監察、將兵は至極、数瞬調敵なる米川中佐あり、破

(後名) 五月1日 五月1日 凹筒

氣がつかない模様だ、皆然地上 空に突込み撮影したが破機は害 分達の位置を敬へてゐるのだと

ら用がすめば急いで機能をかへて一路につく、酸素が吸り少くなつた 徴兵制を徹底聯盟で

やく我を送見追属して 200歳になってP38

つたが、敵はなほ歌

地で明他して ゐたが、こん どな

此く、思、

の限にの明明部級背海 **難** 朝鮮・ 新年の選集日間である。 新年の選集の関係を表現している。 新年の表現である。 新年の表現である。 新年の表現である。 「おります。」 「おります。 「もります。 「もり。 「もり。 「もり。

館花浪

日 朝 館畫映信和

座治明

場劇於日京

悠々敵情を偵察の場合

く、同中的は隠密偵察はあくまで地味な陰の 任務でたい無事に務めあげて爆魔機隊の限見

入ると哨戒 半島二千五百萬の蔵蔵を出場し、 必勝不敗の東岡精神を堅持せしめ の、密起を促すため國民総力期特に徹民間の趣旨を徹底、高

てしまった、戦闘隊 上空に侵入

一美型(五行) 一家求む(四、五室位) 中国文は即山島北部 中国文は即山島北部

の荷閣し措置、東京都改蔵局等空間が大衛門君、荷物化園民衆校初等科四 和温ならびに陳黙、校長先生の温ならびに陳黙、校長先生

00部隊長殿 (前路) 當均法

小戦の大空へ 大空へ 大空へ 大空へ 大空へ 大空へ 大空へ 大空へ

機『新司貨』の超人的記録が認められてゐる

祭行の勞苦を左の如く語った

る松林にとり歴まれた龍山雪

るのだ、なほ

/までも微力 | 「中央 | 「中本 | 「中

のやうな苦心 部隊とは趣き

排ふ必要を痛感するのである 速に登現するやう副期的な努力を

はす、かくて遠心の咳を滞け 内地大陸間

【東京電話】戦争遂行上に必須の一特に重點を置きこれ。 相互連絡を調整 急行、寢台券の割當を増加

0

帯弧荷、海航國互優新爆疫卒業) と祝とらのウェミラフト・レ・、 C 許よりを好り言葉と習者 くしこれ 長村 豊積 黄海辺州野野諸 「世界の送で盛の日本の名を賜かを」を決ししたのである。「閔が郷石「である、日のかっ」を決ししたのである。「閔が郷石」である。 先輩たちのあとにつつかんと、い である、若櫻の如く我々は明日徴 立に必勝の信念を堅持して一路

自分達の後端よ米英階級のため空間分達の後端よ米英階級のため空 級に飛び出すには少年飛行兵となってはをれない、一日も早く第一 來る、現在は朝から夕まで猛跳線 るのが早道だと知つた、合格した

てゐる、一分一秒を惜しんで自己

空に來れ、これからの賦爭は空に める、空で制してこそ勝利を得る 飛行兵となって前級に飛び立 **輩を大空にやつつけよう、百機二** めつても飛行兵となって米英の奴 りした、口惜しかつた、どんなどが

射したのだ、

れば、いまでは取除生活もやう校してすでに五箇月を經過して る宣戦の大韶政強せられ、大東京 行兵の志願決意が火と燃えた、

座富新

場劇陸大 場劇洋東

年飛行兵はわれの宿望であり 空は僕等の決戰場

何んぞ惜まんこの

大空に飛び立て、空は君達を待

百機はものゝ数ではない、片端か

の少年飛行兵をらんとする常は第 へなければならぬ。一主機能に燃」より飛ばない。突で取ると伝想がく身際を強くし、優れた確認を騰」は其日々々、日の民跡を全うしたくのが年晩行兵を与んとする意は対。ならってはないか、今自分の影び

決意した、派を削するものは

歌に燃えて一人でも多く航空決戦 の本極ではないか、若著は磁忠の

り望えて後輩達よ、空と激かうの大空に挑むの定、我々の屍を飛

| 国展版名 | 京級 米登 前町 | | 文部年紀以来の浜町の大阪県を高 | 京級 米登 前町 | 版やラジオで刊り素米の歌龢は空板とめたのつつた、大東部歌・新途を含まる日本のでは、 | 大東部歌・新途を含まる日本のでは、 | 大東部歌・新途を含まる。 後据たちよ、大東亜威に勝つ爲にと同じ氣持で勉強してゐる、私の どう
花少年
飛行
兵を
志願
して下
さ い、そして米英鑑波に選張しよう

なって大空で凝積の活躍が出來る

やうに血がどろの訓練をつんであ

扶桑萬

はないであらう、踏君空の軍跡に

んがみ顕道省では鮮獣、漸蜒、華がついて大陸間変通の重要性にか ペンも

灩 解**雇废告** 有数的种

行之者が月二十一日的を以って都合に依り新世、 東町一十五番地 以目 是正

固く書つた、後歌諸君に告ぐ、諸君

く馴れてきた、朝から夜にかけて 旅客輸送開整は一敗と選化されるにより急行旅客列車は相路減少し

が成んでも恥かしくないやう日常 が低へを繰ってるる 僕はいま、名祭ある少年飛行兵、

> には、派の出るくらゐつらいこと では~と、心を聞まし、自分をむも あるが~米英をやつつける ま てゝ、規律正しく毎日の訓練が盗 殿の如き崇高なる
>
> /空の神
>
> /のあ すべてラッパの昔に士氣を暗

器示標空防

野 組

